未来館 News

vol.90

2025 spring

福島県男女共生センター広報誌

特集

未来館トークサロンin郡山女子大学短期大学部
～女性議員と話そう～

女性議員と話そう

令和6年11月28日に、白河市議会議員の大木えりさん、富岡町議会議員の辺見珠美さんをお招きし、議員になるきっかけや議員活動等についてお話をいただき、郡山女子大学短期大学部の学生と意見交換を行いました。

大木　えりさん（白河市議会議員）

須賀川市生まれ、郡山女子大学短期大学部保育科卒業後
幼稚園教諭として15年間勤務
結婚・出産を機に白河市在住
2019年に議員初当選、現在2期目で6年目

議員になるきっかけ

子育てや仕事のことでいろいろ悩んだり、市や町によって違う支援を間近で感じたりした時期に、「政治の道に進めば、保育の職場環境や地域によって違う支援も変わっていくのでは?」と夫から言われました。

それから2～3年は「私は議員としてやっていけるのだろうか」と考えていました。しかし、そもそも白河市の議員はどういう人がいるのか調べると、平均年齢が65.4歳で女性は2人、しかも、子育て現役世代が一人もいないということを知り、私が議員になれば、今、子育てを頑張っている人たちの意見を市政に反映できるかもしれないと思い、立候補することに決めました。

初めての当選

初めての選挙のときに、ある方から「地盤・看板・鞄の三バンがないと選挙には受からないよ」と言われました。1つめの「地盤」は後援会の組織体制、2つめの「看板」は知名度、3つめの「鞄」は潤沢な資金のことで、私にはどれもなかったのですが、9番目に当選することができました。

当選した理由は、推測でしかないのですが、若い女性の議員が一人もいなかったので、子育て現役世代としての期待があったのではないかと思います。加えて、SNSを使って情報発信している議員が一人もいませんでした。若い世代や忙しい世代の方は、日中は家にいませんので、選挙カーで走っても誰が近所に来たかわからないですし、演説してもどういうことを言っているのかさえわかりません。でも、SNSでの発信は、どういう考えの議員がいるのか知るきっかけになるため、SNSを使う人たちの心を掴むことになったのかなと自分では思っています。

議員としての活動

自分の報酬は皆さんの税金からもらっていると考えると、日頃からどんな仕事をしているのか発信しないといけないと思い、仕事を見える化することを大切にしています。

また市民の方から要望をいただくときに、電話やメール、SNSのメッセージ機能を活用し、どんな時間帯でも要望を受け取れるようにしました。その後、要望を市民の方にどれくらい還元できるのか調査した上で、一般質問で提案したり、市役所の担当課の方に提案したりしています。

他には、現地視察も多く行っています。例えば有機農業をやっている農家さんのところへ行き、どんな方法で有機農業をやっているのか教えてもらったり、さらに収穫した有機野菜を使って学校給食を提供できないか検討したりすることなども行っています。

学生の皆さんへ

まずは皆さんが住んでいる市町村の議員にぜひ声をかけてみてください。議員は話を聞くのが仕事です。私はいつも市民の方に、「議員は、皆さんの暮らしをよくするための存在であるので、議員を使ってどんどん自分がやってほしいことを言っていいんですよ」とお伝えしています。ですから、皆さんも遠慮せず、議員と知り合って話をしてみてほしいなと思います。

辺見　珠美さん（富岡町議会議員）

東京都生まれ、大学卒業を機に川内村へ移住、いわき市を経てのちに富岡町在住
「とみおかこども食堂」実行委員、「きゃべつの葉っぱ」運営委員、「ふくしま盛り上げっ課」事務局など、富岡町や川内村を中心に草の根活動を継続中
2024年3月に議員初当選（1期目）

移住したきっかけ

大学生のときに東日本大震災が起きまして、2011年6月に放射能測定ボランティアに参加し福島県に足を運びました。また、2011年の12月から、富岡町から東京に避難してきた子どもたちの学習支援ボランティアを行うようになり、そこで富岡町とのつながりができました。それが縁で就職先として富岡町に関われるところを探していたところ、隣の川内村に福島大学のサテライトができ、放射線担当職員の募集があったので応募、採用され2012年12月川内村に移住しました。2016年にいわき市で働いている方と結婚して一時期いわき市に住みましたが、2020年に別居することになり（のちに離婚）、なじみのある双葉郡に戻ろうと考え、現在の富岡町に移住を決めました。

富岡町の今

富岡町は原発事故が引き金となり、地域コミュニティの喪失や少子高齢化をはじめとする多様な地域課題を抱えています。しかし、その課題を嘆くのではなく、解決に向けてこの地域に合った方法を模索し、自分たちで取り組んでいきたいという人にとってはやりがいを感じられる地域だと私は思っています。また、周辺の被災自治体それぞれ特徴があり、規模感や風土も違うため、自分に合った暮らしが見つかるかもしれませんので、一度富岡町にも来てもらえたらうれしいです。

議員になるきっかけ

現在、富岡町の居住者は約2,500人になりました。もともとの住民で帰還された方は1,000人位、転入された方が1,400～1,500人位と、帰還された方の人数を震災後に転入された方が上回っている状況です。そういった中で、（自分のような）転入者の声もまちづくりに反映させたり、若い世代の声、女性の声、子育て世代の声、障がいをもつ方の声をもっと町に届けたりして、富岡町を多くの人にとって愛着のあるまちにしていきたいと思うようになりました。

また、当時、私にとっては大事な方が議員を引退することになりました。「とてもよく話を聞いてくれていた議員の方が辞めてしまうんだ」と思ったときに、自分がその方に代わって地域の方と話せる議員になろう、この町に住んで、住民の皆さんの声が届く議員を目指そうと思って立候補しました。

学生の皆さんへ

議員はそんなに遠い存在じゃないと自分がなってみてわかりました。議員は住民の代表であって、やがて皆さんがそうなる可能性もあります。ですから、選挙で議員を選ぶときには、自分で調べて、「この人なら任せられる」「この人に投票しよう」という意志をもって投票してもらえるとうれしいなと思います。

NEXT PAGE
郡山女子大学短期大学部の学生からの質問

特集　事業レポートⅠ　未来館トークサロンin郡山女子大学短期大学部

学生からの質問

質問1　どうしたらもっと女性が議員として政治に参加できるようになるのか、あるいは、政治に女性が参加できていない原因は何かなど、お二人の視点で教えていただきたいです。

辺見　女性だと出しゃばりみたいな感じに思われてしまうので、そういった壁を壊していかないとなかなか女性議員は増えないのかなと思います。「女性が議員をやっても全然問題ないんだよ」という雰囲気を作っていきたいなと思ったのも立候補した理由の一つです。

　また、議会には、ほかの議会も同様と思いますが、託児スペースはありません。子育て中の世代が議員になることを想定されていないのかもしれませんが、そういったところも改善されていけば、議員になってみたいという女性が増えるかもしれないと考えます。

大木　地方は「知り合いの知り合いはみんな親戚」みたいにどこかでつながっている感じがあり、女性が議員になりづらい地域性みたいなものもあるのかなと思います。

　そこで、学校教育の中でも主権者教育について力を入れていただき、子どもたちと議員との距離を縮めることが大事なのではないかと思います。議員が日頃どんな仕事をしているのか間近で見ることが、「私も議員ができるかもしれない」というきっかけづくりになるのではないかと考えます。

質問2　議員になられてから日々大切にされていることはありますか。

辺見　議員になる前からですが、とにかく話を聞く姿勢はずっと変わらず持ち続けたいと思っています。私自身が強くあるというよりは、皆さんの声を大切にしたいと思っているので、聞く姿勢を忘れないようにということを常に気をつけています。

大木　一つは自分できちんと計画して、その計画のとおりに自分が働いていくことです。

　もう一つは頑張りすぎないことを心がけています。私は出産して2か月で復帰したのですが、それは結構大変で、あまり頑張りすぎてしまうと「大木さんだからできるんでしょう?」と言われ兼ねないと思いました。私がやりたいことは、あとに続いていく若い世代の議員を創出することなので、子育てと両立できる範囲内で議員活動していくことを大事にしています。

学生からの感想

- 私は議員さんと直接話したことが今までなかったので、すごく親しみを感じました。また、とても楽しく活動されていらっしゃるのだなということが印象に残りました。
- 今まではどこか政治は距離を感じるものでしたが、今回大木さんと辺見さんの議員になったきっかけや仕事の内容を聞き、「議員=(イコール)住民の代表」ということを改めて理解することが出来ました。

おすすめBooKS　「女性の政治参画」関連の本　《当センター図書室所蔵》

『50代で一足遅れてフェミニズムを知った私が ひとりで安心して暮らしていくため考えた身近な政治のこと』

和田靜香/著　左右社　2023年 ▷

　本の題名にインパクトと親近感を感じる、まさに体当たりの政治エッセイです。昨日より今日と、1日1日年をとって、これから先、いつまで働くことが出来るのか、生きていけるのか、先の見通しがつかないこの不安を女性議員なら自分事として考えてくれるのか…。著者は、日本で唯一パリテ(男女同数)議会を20年以上続けている神奈川県大磯町議会を訪ねます。その土地で、「声をあげる」を実践してきた女性たちの生きざまと想いに触れるのです。さて、その先にどのような希望の光が見えてくるのでしょう?!

そのほかにも、『ニュージーランド　アーダーン首相』マデリン・チャップマン‖著　西田佳子‖訳　集英社　2021年、『女帝 小池百合子』石井妙子‖著　文藝春秋　2020年、『永田町　小町バトル』西條奈加‖著　実業之日本社　2019年、他多数ございます。どうぞ、ご利用ください。

問い合わせ　福島県男女共生センター図書室　☎0243-23-8308
開館時間　9時~20時（休館日前日は17時まで）

事業レポートⅡ　令和6年度 ユースと考える男女共生交流事業

当センター初企画!!!「ジェンダー平等カフェ」

●若年世代とともに、男女共同参画を推進するための課題について考えるため、10代・20代のユース世代を対象として開催しました。

第1回
・R6.12.21
・福島市
対面開催

①講話「だれかのジェンダーからわたしを守る ーバウンダリーの引き方ー」
講師　KAKECOMI代表　鴻巣 麻里香さん

・他者からのジェンダー押しつけには「わたしはわたし」という他者と自分を分かつ境界線=バウンダリーを引き直すことが有効であるとお話しいただきました。

②グループトーク「ジェンダーに関するモヤモヤ、フリートーク」参加者　11名

第2回
・R7.1.22
オンライン開催

①講話「モヤモヤから始めるジェンダーアクション」
講師　一般社団法人GENCOURAGE代表理事　櫻井 彩乃さん

・高校時代のある言葉を契機に、自分らしく生きられる社会の実現を目指し、ジェンダー平等を学ぶ場の創出等を実践し続けていることをお話しいただきました。

②グループトーク「ジェンダーに関するモヤモヤ、フリートーク」参加者　7名

参加者の方の感想

- ジェンダーに関わる話し合いが初めてで、貴重な時間でした。
- 対面で普段気軽に話しづらい話題を共有することができました。ぜひ今後もこのような場があってほしいです。
- 同年代との交流が持てるところが非常によかったと思います。

事業レポートⅢ　令和6年度 キラっとさん活躍促進事業

「ライフデザインセミナー」

●大学、短期大学、専門学校などの学生を対象に「性別にとらわれない生き方・働き方」を学ぶセミナーを開催しました。ロールモデル(講師)の悩みながら決断した半生についての話を聞いた後で、学生同士が自分の将来について意見交換や発表を行いました。

ロールモデルとテーマ

- 横尾恵美さん「男女参画と事例紹介」（福島工業高等専門学校、郡山ヘアメイクカレッジ）
- 鷲谷恭子さん「人生のハンドルを握り、自分の物語を描く」（福島大学、今泉服飾専門学校）
- 横田智史さん「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画」（福島学院大学）

今泉服飾専門学校での様子

参加者の方の感想

- これからの自分の生き方を考えてみる良い機会になりました。
- 性別にとらわれず、自分の価値観にしたがって将来を決定していきたいと思いました。
- 意見交換では、人によって価値観が大分異なるということに気づきました。その違いを大切にしたいです。

会津美里町
政策財政課

私のまちの男女共同参画推進

ご紹介くださった方：会津美里町政策財政課　中野 優太さん

Q1 今年度は、どんな事業を開催されましたか？

①男女共同参画審議会を7月と10月の2回開催
②町内100事業所を対象にアンケートを実施し、男女共同参画への取組実態の把握、併せて女性活躍推進や関係法令の周知や啓発活動
③「男女共同参画川柳コンクール」（応募総数：236点※小学校4年生以上）を実施し、最優秀賞、優秀賞受賞者を表彰
④男女共同参画推進事業講演会を12月に開催

男女共同参画審議会

Q2 講演会はどのような内容でしたか？

■演　　題　「人口減少・少子化と女性活躍～転入女性のお仕事マッチングから見えるもの～」
■講 師 名　一般社団法人tenten代表理事　藤本 菜月さん
■講演要旨

●人口減少・少子化はなぜ起こるの？
　●女性人口の減少、結婚・出産の減少
　●さらに経済的に余裕がないと子どもを作れない
●人口減少・少子化によりどんな影響が起こるの？
　●労働力不足、消費者人口の減少、現役世代の負担増加、地域経済の衰退等
●そこで一般社団法人tentenの活動「職業マッチング事業」
　●転入女性の居場所やつながりづくり→女性のマインド・行動に変化→女性が自然と活躍
　●スキル&経験、ヨソモノ目線を持った女性と優秀な人材を求める企業を繋げたい
　●現実は、求職中の女性は条件付きパート職を、企業は正社員を求めており、ギャップあり
　　→求職中の女性も企業も働き方や考え方の見直しが必要
●人口減少・少子化を解決するためには？
　●女性が残りたい、戻りたい、働きたいと思える地域づくりが必要
　●一番身近な女性のロールモデルである母親の姿が重要
　●そのために男性も含めて一人ひとりが今できることを考える

■参加された方の感想等

●人口減少は「働く場所」の問題というのはとても強く感じます。
●企業も地域も「今」の働き手に、魅力ある働き方を提供しないといけないなと感じました。
●女性が「この地域で生きていきたい」と思うのは母親がロールモデルであり「お母さんみたいになってみたいが原点」という言葉が心に残りました。

Q3 今年度の各種事業を通して、担当者：中野さんの想いや今後に向けての抱負は？

事業所アンケートや講演会を通して、まだまだ女性活躍が実現された社会にはなっていないと感じました。男女共同参画の本質は、女性も男性も、仕事も家庭も「その人らしく輝けること」ですので、次年度も、本町民の男女共同参画意識の醸成、性別役割分担意識の解消や働き方改革、さらには、女性が多様な場面で活躍できるような地域社会の創出など、一人ひとりが男女共同参画について考えるきっかけを提供していきたいと考えています。

福島県
男女共生課

ふくしまアンコン解消アクション！

ご紹介くださった方：福島県生活環境部男女共生課　岡部 聡さん

◎福島県は、誰もがあらゆる分野でイキイキと活躍できる男女共同参画社会の実現を目指します。アンコンに気づき、解消に向けた行動につなげるため、みなさんから募集したエピソードをもとに啓発冊子「はやわかりハンドブック」を作成しました。ぜひ、ご覧ください！

アンコンシャス・バイアスとは？
unconscious bias

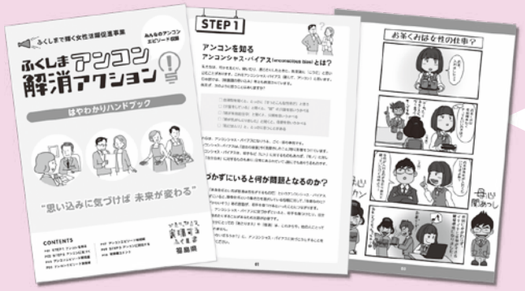
私たちは、何かを見たり、聞いたり、感じたりしたときに、無意識に「こうだ」と思い込むことがあります。これをアンコンシャス・バイアス（略してアンコン）と言います。日本語では「無意識の思い込み」等とも表現されています。

ふくしまで輝く女性活躍促進事業

みんなのアンコンエピソード収録

ふくしまアンコン解消アクション！

はやわかりハンドブック



ポイント❶ 有識者監修のもと制作

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
代表理事 **守屋 智敬**さん

2018年、ひとりひとりがイキイキする社会をめざし、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所を設立。アンコンシャス・バイアス研修の受講者はこれまでに10万人をこえ、育成した「認定トレーナー」は、200名をこえる。

ポイント❷ 採用されたエピソードを母心関さんが4コマ漫画に

CONTENTS

P01 STEP1 アンコンを知る
P02 STEP2 アンコンに気づく
P03 アンコンエピソード職場編
P05 アンコンエピソード家庭編
P07 アンコンエピソード地域編
P09 STEP3 アンコンに対処する
P10 有識者コメント

STEP 1 アンコンを知る

例えば、次のように思うことはありますか？

●血液型を聞くと、とっさに「きっとこんな性格だ」と思う
●「介護をしている」と聞くと、"親"の介護を思いうかべる
●「親が単身赴任中」と聞くと、父親を思いうかべる
●「親が乳がんにり患した」と聞くと、母親を思いうかべる
●「私にはムリ」と、とっさに思うことがある

STEP 2 アンコンに気づく

STEP 3 アンコンに対処する

●「ステレオタイプ」って聞いたことある
●エピソードがアンコンに気づくヒントになるね
●「アンコン・メモ」つけてみようかな

●お問合せ先　福島県生活環境部男女共生課　［電話］024-521-7188
●ふくしまアンコン解消アクション！「はやわかりハンドブック」ダウンロードはこちらから →
（ふくしまアンコン解消アクション！特設サイト）

みんなで アンコン しんだん!（ジェンダー編）

・アンコン…「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」の略

○「Yes」と思う文の□にチェック“✓”してみましょう。

学校生活の場面

- □ 女子には「ちゃん」や「さん」、男子には「くん」を付ける
- □ 赤いランドセルは、女子が選ぶもの
- □ 制服のスカートは女子、ズボンは男子がはくもの
- □ 男子は活発で、女子は落ち着いている
- □ 野球部は男子が入部するもの

家庭生活の場面

- □ 「食事作り」「おそうじ」はお母さんがすること
- □ 男の子は泣いちゃダメ
- □ 赤ちゃんは、ママでないと泣きやまないもの
- □ お父さんは家事が苦手
- □ 女の子だから家の手伝いをするのは当たり前

仕事の場面 ※お子さんが考える時は、説明を加えてください。

- □ 力仕事は男性が行うべき
- □ 女性は機械を扱うことが苦手
- □ 男性は気を遣う仕事やきめ細かな仕事に向かない
- □ 来客にお茶を出すのは女性の仕事
- □ 会社で制服を着るのは女性、スーツを着るのは男性

◎しんだん結果、このページの下にあります

「伝統もこだわりも、
『変化』は『進化』かもしれない」
by ico.

アンケートにご協力ください。

広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりに向けアンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにて受け付けております。

アンケートはこちらから→

●しんだん結果 ※逆さにしてご覧ください

1つでも「Yes」があれば、アンコンシャス・バイアスがある（あくまで可能性）と思われます。それが、「良い」「悪い」ではなく、誰にでもありうるものなのです。「これって、私のアンコンかな？」と気づくことで、ものの見方が変わり可能性がさらに広がるきっかけになるかもしれません。

表紙イラスト＆4コマ漫画作者
ico.（いこ） イラストレーター
防災士（福島市防災士の会 会員）
PROFILE
1985年宮城県名取市生まれ、福島県福島市在住。
雑誌の挿絵や企業広告をメインに、自治体の観光PRのデザインやイラストも手掛ける。福島市防災士の会会員。防災啓発をイラストで伝える。
講演や問い合わせはHPへ
http://icollection.me/

◎表紙協力：「猫交流スペースひだまりねこ」

未来館 News vol.90

当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。
（公財）福島県青少年育成・男女共生推進機構
福島県男女共生センター（女と男の未来館）
〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
TEL：0243-23-8301（代） FAX：0243-23-8312
https://www.f-miraikan.or.jp
X Instagram